



?なるほど Q & A



Q1

幼稚園と保育所と認定こども園はどう違うの？

A：みその幼稚園は幼児期に必要な「教育」を行う場であり、子どもがはじめて出会う学校です。

幼稚園は文部科学省が管轄であり、保育所は以前厚生労働省が管轄でしたが2023年4月より、内閣府が管轄であった認定こども園と同じくこども家庭庁に管轄が移行されました。幼稚園は、1日の保育時間を標準4時間とし、園児の体力や精神状態を考えて保育しており、集団生活の中で基本的な生活習慣を身につけ、様々な遊びを通し周囲の環境や友達と関わりながら、「見て、触れて、感じて」と多くの経験をし、将来へ向けた社会性と生きる力の基礎を育むと共に学校教育法に基づいた、幼児期に必要な「教育」を行う場です。また、近年は各幼稚園とも保護者のニーズに応じて保育終了後の預かり保育の充実にも努めています。保育所は、保育を必要とする乳児・幼児を保護者が仕事をしている間、保護者に代わり子どもに適切な環境を与え、生命と身体の安全を守りながらお預かりするという養護的な役割が重視されています。認定こども園は教育及び保育を一体的に行い、保育所と幼稚園の両方の機能や特徴を併せ持った施設です。私立幼稚園が認定こども園に移行した場合には国が定める公定価格（公費）の枠組みの中で市町村を窓口として運営することになり、同時に市町村への応諾義務等も生じる等、私学本来の独自性や特色が失われる恐れがあります。これらの視点を踏まえて、当園は認定こども園には移行せず、これから子どもがはじめて出会う学校のまま、私学の独自性と特色を以て“建学の精神”の基、本来の幼稚園の使命である「教育」をしっかりと実践して参ります。

Q2

**大規模園と小規模園との比較は？
園児数に対する先生の割合は
どのようになっているの？**

**A：当園は園児11人に1人の先生
だから安心です。**

園の規模については、「少人数がよい」という回答が優勢。また、先生の人数と園児数の割合を確認することが大切なポイントの1つなのです。

令和6年度は園児11人に対し先生が1人の割合になっており、プレクラス・年少中児においては、チーム保育を取り入れております。全教諭が園児一人ひとりの顔と名前を把握し、日々の保育の中で個々の発達に合わせた細やかな援助を行い、安心・安全に園生活が送れるようにしております。

Q3

**2年保育にしようか、
3年保育にしようか迷っています…**

**A：`5歳までの教育環境が子どもの将来を決める、
という多くのエビデンスが昨今示されています。
自我の芽生える3歳児入園が理想です。
また、満3歳児入園から幼児教育・保育の
無償化対象となります。**



3歳頃になると、自我が芽生え、あらゆることに興味・関心を持ち始めるようになります。“三つ子の魂百まで”と申しますように、その大切な時期に様々な人的環境の中で教諭や同年齢児、異年齢児との関わりを通して社会性が育まれ、社会生活における付き合い方を学んでいきます。少子化時代の今日、一人っ子であったり、近所に同世代の仲間がいなかったりと、子ども同士で遊ぶ機会が持ちにくい環境で育つ子どもは少なくありません。そういう環境だからこそ、早く幼稚園に入り、様々な体験を通して、社会性や感性更には非認知能力を幅広く培う機会を作ってあげることが大切だと思われまます。

幼児期の集団生活での脳の発達、脳科学の分野から見ても大人の1年間のそれとは比べものにならない程の目覚ましい発達があります。ですから、幼児期の心や生活を豊かに充実させていくという点では、より多くの時間をかけたほうが、沢山の体験から幅のある心の豊かさと、より良い脳の発達が得られると思います。近年は幼児教育・保育の無償化対象となる満3歳児就園（3歳の誕生日を迎えた日から入園可）希望が以前に比べ大変増えています。

令和5年度よりプレクラス（入園準備クラス）が始まりました。

※プレクラス（入園準備クラス）については要項2ページをご覧ください。

Q4

どのような保育・教育内容ですか？

A：感謝と思いやりを建学の精神に心（EQ）の教育と幼児体育を通して非認知的能力の向上と育成に力を注いでいます。また、園生活での様々な経験の中で満喫感や達成感を味わい、自らが自信をもって行動できるよう日々の保育に努めると共に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を大切にしています。

当園では“感謝・思いやり”を建学の精神とし、教職員一丸となり心の教育を実践しております。また、園児達の新未来を生き抜く力を培うため「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を示し、当園教諭は子どもの成長を見る時の視点として捉えながら日々の保育・教育を行っています。そして、その中で自律（立）心を持ち、様々な状況に対して主体的な言動ができるための資質と非認知的能力の根っこを育てています。

保育形態としては、自由保育と一斉保育のバランスを取って実践しており、個々の園児の自主性・自発性を高めると共に、心（EQ）の教育として合同礼拝・誕生会があります。聖話を通して聞く力を養い、感謝と思いやりの心を育み、善悪のけじめがつけられる子どもになるよう日々の保育を通して指導・援助を行っております。

心身の健康づくりと脳の発達を促すために幼児体育にも力を注ぎ、保育内体育教室をはじめ、仲間と力を合わせて頑張る気持ちを養うため保育内サッカー教室（年長男児）、美しさに対する豊かな感性を養いイメージを広げ、様々な表現を楽しむことをねらいとした保育内新体操教室（年長女児）、更には表現力、想像力、集中力を高め体の根幹と心を強くするキッズヨガ教室も行い、園児達の心身共にバランスの取れた成長とEQ（心の知能指数）の向上を目指しております。

また、日本の国際化に向け、当園の外国人講師との交流の中で、保育内英語あそびを行っております。外国人に対して心の壁をつくらず、自然にすべてを吸収しています。幼児期のこの体験は国際人としての第一歩になることでしょう。

※是非、元気図鑑1～4ページをご覧ください。

Q5

幼稚園の幼児教育・保育の無償化について
教えてください。

**A：私立幼稚園は保育料月額25,700円まで無償です。
預かり保育につきましては共働き世帯のお子様など
預かり保育の必要な3歳～5歳児までのお子様を対象
に利用料月額11,300円まで無償となります。**

みその幼稚園は保育料月額35,000円の内、満3歳～5歳児を対象に月額25,700円が無償となり差額の9,300円を保護者負担分として納付していただいております。その中に各教室指導料はじめ園外活動費の一切が含まれています。更には、預かり保育において当園独自の子育て支援補助もあります。また、(公社)福島県私立幼稚園・認定こども園連合会では、福島県に対し子育て支援の一環として無償額の増額を強く要望しています。

※詳しくは要項の3～4ページをご覧ください。



Q6

スクールバスコースは決まっていますでしょうか？

A：当園のバス運行は年度ごとにコースが変わります。

令和6年度はバス2台で2コースに分かれて運行しております。また、園児の体力を考慮し所要時間は各1時間程度のコースとし、毎年バス利用希望者にあわせてバスコースを決定します。各バスには添乗員が一人同乗し、常に園児一人ひとりに目が配れるようになっていますので、途中お子様の気分が思わしくない場合でもすぐに対応できます。

令和5年度よりスマートフォンから連絡が出来る《れんらくアプリ》を導入し、保護者の方はアプリより「欠席」「遅刻」「早退」「バス不要」の連絡をアプリにて行うことができます。また、バスにはアプリと連携したGPS機能があり、バスの到着時間を確認することができます。尚、常に園とバスとの連絡が無線で取り合えるようになっています。

バス通園の時間も保育の一環と考えておりますので、添乗員と園児との関わり、園児同士の関わりも十分にあり、バスの中はいつも楽しい雰囲気です。



Q7

共働きの場合どのようにすれば良いでしょうか？

**A：当園独自の子育て支援補助を活用し、預かり保育をご利用下さい。
また、共働きの方は第2号認定となり、預かり保育が幼児教育・保育の無償化対象となります。**

当園では、ご希望に応じて預かり保育を1時間単位(300円)平日19:00まで行っております。預かり保育も通常の保育の延長として園児達が多く仲間達とかかわる時間を持てるよう、また様々な体験ができるよう毎日楽しいカリキュラムのもと行っており大変好評です。

そして共働き世帯(第2号認定)の方を対象に月額11,300円まで(450円×利用日数が上限)が無償化となります。更には、当園独自の子育て支援補助を行い、保護者の負担を軽減すると共にご利用しやすい環境作りに努めております。保護者のニーズにお応えして大切なお子様をお預かりしますので遠慮なくご相談下さい。

また、早朝預かり保育(7:30～)や春・夏・冬休みも預かり保育を実施しております。春休みに限り第2号・第3号認定園児を対象として行っております。

また、福島市が行っている幼稚園送迎ステーションを利用することで保護者の方の就労時間とお子様の登降園時間のミスマッチを解消することも可能です。尚、当園は送迎ステーション園になっています。

※詳しくは要項4ページをご覧ください。

Q8

お弁当ですか？給食ですか？

A：基本的にはお弁当になりますが、希望者は外注のお弁当給食を毎日注文することができます。

当園では、週4回(水は11時降園のためお弁当なし)昼食の時間があります。お子様の食べられる量や健康状態を配慮して楽しい時間となるよう保育を進めております。園児は、お弁当の蓋を開けるのがとても楽しみなようです。友達と一緒に食事の時間は幼稚園生活の楽しいひと時となっています。また、希望者には外注のお弁当給食(1食330円)をご利用頂いております。



Q9

父母の会活動は、どのような活動をするのでしょうか？

A：親が子どもと共に活動し成長していく場です。

当園では平成29年度より、父母の会組織の改革を行い、組織をスリム化すると共に、役員はじめ保護者の皆様に父母の会活動が大きな負担にならないように致しました。

毎学期の行事等を園が示し、父母の会役員はじめ保護者の皆様より各行事等へのご意見等を頂くと共に都合もお聞きし、協力できる際には参加・お手伝いを頂いております。そして、和気藹々と園児達のより良い環境作りのためにご協力を頂いております。保護者同士のコミュニケーションも生まれ、そこから子育てについて学ぶことも多くあり、親子共に成長できる場でもあります。

また、普段幼稚園になかなか来ることが出来ないお父様同士のコミュニケーションの場として、希望者による“おやじの会”があります。行事等を通して園児の成長を園長先生と共に喜び分かち合っています。

